

ブランド都市・桐生の構築と「MADE IN 桐生」製品の ブランド化事業への支援について（新規）

新型コロナウイルス感染症が拡大し世界的なマスク不足に陥る中、1300年の歴史を誇る集積型の総合繊維産地・桐生では多くの繊維関連事業者がオリジナル布製マスクを作り、この危機に対応しました。

桐生商工会議所では、「コロナのピンチをチャンスにプロジェクト」の一環として、これらをホームページに集約、発信を行いました。

「made in 桐生のマスク」は新聞・テレビ等のメディアにも多数取り上げられるなど注目を集め、事業者による「連絡会議」の開催や、国の補助事業「JAPANブランド」への申請による越境ECやクラウドファンディングの活用、桐生の多様な地域資源を一元集約したウェブサイト「桐生クラフトストーリー」の新設など、海外展開を含めた販路開拓の支援及びブランド都市・桐生の発信を行っております。

これからも「桐生クラフトストーリー」の拡充により、多様なクラフトマンシップが育まれる桐生の魅力を全国に伝え、またブランド認定制度の創設など、関係機関とも連携しながら繊維関連をはじめとした桐生の事業者・製品の更なる付加価値向上、産地PRを行っていきます。

今後も桐生マスクのブランド化をきっかけに「モノ」と「まち」の両面から「ブランド都市・桐生」の実現を目指し、地域の事業者と経済の持続的な発展につなげていきたいと思っておりますので、引き続きこの事業の推進に、より一層のご支援をいただきますよう要望致します。

桐生市からの回答

当市には、1300年の伝統を誇る織物のみならず、繊維関連の複合的な技術が高いレベルで集積しており、国内の繊維不況が常態化する現在においてもなお、高度な産地機能を維持している数少ない総合繊維産地と評価されております。市内には、繊維不況の中でも生き残る技術力や強みを持ち、それを活かしたオリジナル商品づくりに取り組んでいる企業が数多くあり、中にはブランドイメージを持つ付加価値の高い「made in 桐生」製品として、国内外で高く評価されているものも存在しております。

一方、繊維関連の様々な技術集積の中で多様な商品群が存在するが故に、業界の枠を超えた地域一体となったPR活動等を進めにくかった面もあり、厳しい経済環境に置かれた地域企業に波及効果をもたらす「地域ブランドづくり」は以前から課題として指摘されておりました。また、オリジナル商品展開等を行う地域企業にとって販路開拓は共通の課題でもあり、地域ブランドの構築を通じた販路拡大支援は強く求められているところであります。

こうした中、貴所が中心となり、「コロナのピンチをチャンスに」を合言葉として、マスクを切り口とした地域一体となったプロジェクトが立ち上がり、約40社の地域企業が参加する中で、「made in 桐生」製品の販路拡大や地域ブランドづくりの取組が進められたこ

とは素晴らしいことであり、今後の更なる進展が強く期待されるところであります。

貴所では今後、昨年度の取組の成果を踏まえ、越境E C等を通じた「made in 桐生」製品の販路拡大のほか、「桐生クラフトストーリー」の拡充やブランド認証制度の創設等、「ブランド都市・桐生」の実現に向けた様々な取組を進める予定と伺っております。市といたしましても、引き続き貴所と情報共有を図り、密接な連携体制の下で、更なる推進を図ってまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部商工振興課産業立地戦略担当